

## 【事業実績】

### 1. 構築された安定化処理技術の普及・定着のための関連行事の開催

#### (1) 安定化処理技術の普及・定着のための関連事業の開催

##### ① 特別展の開催

東京、大阪の2会場で、再生した陸前高田市立博物館所蔵資料と安定化処理の過程を紹介する特別展を以下の会期で開催、合計 22931 人の来場を得た。並行してギャラリートークをオンラインで公開、約 250 回の視聴を得た(令和3年3月時点)。なお、東京会場では東京家政学院大学学生による資料再生活動への支援の成果、大阪会場では続発する豪雨災害における文化財等の被災と再生についてもあわせて取り扱った。

なお、計画段階で開催事業の一つとして掲げていたワークショップについては、講師及び参加者の県境をまたいだ移動を促し得るため、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、当プロジェクトが主体となって開催することは断念せざるを得なかった。その中でも、大阪市立自然史博物館が西日本自然史系博物館ネットワークと共催し、特別展開連事業の一つとして、国などから示されたイベント開催のガイドラインの枠内で実施可能な規模のワークショップを開催した。その成果をホームページ上 ([http://www.naturemuseum.net/blog/2020/12/post\\_75.html](http://www.naturemuseum.net/blog/2020/12/post_75.html)) で公開し、広く共有することで、安定化処理技術の普及という当初計画していた事業目的の一部を達成することができた。

東京家政学院大学：[千代田会場] 令和2年10月6日(火)～23日(金)

[町田会場] 令和2年11月9日(月)～令和3年2月5日(金)

オンラインギャラリートーク <https://www.youtube.com/watch?v=115tNbdFD3k>

大阪市立自然史博物館：令和2年10月16日(金)～11月29日(日)

オンラインギャラリートーク <https://youtu.be/Ro4v-rKCSbA>



写真 大阪会場展示風景

##### 《来場者の声》

- ・文化財レスキューの様子が分かりやすく伝わってきたことに加え、博物館の役割について(中略)とても考えさせられるところがありました。
- ・震災の爪痕が生々しく感じられました。
- ・リードオルガンの音色が展示会場を和ませてくれてとてもよかったです。
- ・ホームページの解説の映像を見て、今回の展示をもう一度見てみたいと思ってきました。

##### ② シンポジウムの開催

令和2年11月22日(日)大阪市立自然史博物館を拠点に、オンラインシンポジウム「自然史標本レスキューの現在地点とこれから」を開催した。Zoomでのリアルタイム参加者77名、youtubeでの事後視聴回数721回(推定ユニーク視聴者345名)を得た。事前と事後をあわせると、計画段階における二会場合計の講演会想定参加者数の4倍を上回る方に視聴していただくことができた。さらに4つの大学(札幌大学、帝京科学大学、東京都市大学、北海道教育大学)の博物館学の講義の中で当該動画を使用していただいた。登壇者は以下のとおり。

パネリスト：熊谷 賢(陸前高田市立博物館) 高妻 洋成(奈良文化財研究所) 副島 颯子(熊本大学)

松下 正和(神戸大学) 鈴木 まほろ(岩手県立博物館)

進行管理：佐久間 大輔(大阪市立自然史博物館) 松崎 哲也(奈良文化財研究所)



写真 オンラインシンポジウムの模様

##### 《リアルタイムで寄せられた視聴者からのコメント》

- ・自然史標本がきれいにレスキューされる中で、岩手で一緒だった人たちがとてもよこんでくれて、涙されている人もいました。
- ・消防団のような緊急救済組織が平時から維持できる体制にしたいです。
- ・311以降の佐久間さんたちの活動には敬服いたします。(中略)ただ、(中略)「心ある人たち」に支えられている状態は根本的にかえてゆかなければいけないと思います。

#### (2) 国際発信のための関連事業の実施

##### ① 安定化処理技術の映像記録化とDVD製作(日英2か国版)・②①のコンテンツのウェブ公開

NPO 法人文化財保存支援機構の工房で行われた陸前高田市立博物館所蔵版画・水彩画資料の安定化処理工程を記録し、日英二か国語でDVDを各100枚ずつ製作・配布、映像は日本博物館協会ホームページ上でも公開を開始した。単純な浸漬による脱塩を施し得ない水彩画に対するグランガム法を用いた脱塩処理や、脱酸・漂白など、版画及び水彩画の安定化処理を特徴づける工程に必要な資材及び技術を容易に把握・共有することが可能となる構成を心がけた。

[URL] <https://www.j-muse.or.jp/06others/stabilization.php>

## 2. 再建後の博物館において被災資料再生を継続するための活動基盤整備

### (1) 安定化処理技術の定着と取り組みに対する地域の理解を醸成するための事業実施

#### ① 技術支援を目的とした研修会の開催

令和3年1月21日（木）に陸前高田市立博物館において、岩手県立博物館で紙製資料の修復を担当している技術者を講師とする支援ワークショップを開催した。陸前高田市立博物館における被災資料再生の取組に従事している職員22名が参加し、喫緊の課題として挙げられた裏打ちを伴う紙製資料修復法の技術共有を行った。県境をまたいだ人の移動が制約される中、県外からの講師招聘を断念せざるを得なかった一方で、実施に先立ち令和2年10月16日（金）にプレワークショップとして、講師らが陸前高田市立博物館を訪れ、紙製資料の修復作業に立ち合い、直面している技術的難点についてヒアリングを行った。当日はそれに応える形で内容を精査して実施した結果、参加者の満足度は100%であった。但し、裏打ち作業を独力で行うには未だ不安を感じると答えた受講者も59%にのぼったため、今後も同様の技術支援を継続していく予定である。



写真 支援ワークショップの様相

《プレワークショップで参加者から挙げられた技術的要請》

- ・裏打ちが必要な基準について
  - ・裏打ち紙の厚さについて
  - ・一度処置を施したものに対する再修理の方法
  - ・修復後に反り・伸び縮みが発生した場合の再修復方法
  - ・修復に使用する糊の濃さについて
  - ・洋紙の修復に使用している（材料）紙について
- ※支援ワークショップでは、以上の要請に応えつつ、基本的な裏打ち法の伝達を行った。

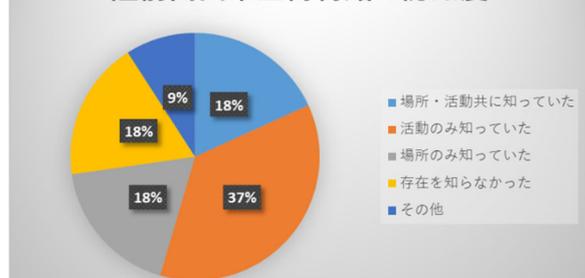
#### ② 被災資料再生現場の見学会の開催

令和3年1月27日（水）、陸前高田市立博物館において、同市立横田小学校6年生全員を対象とした見学会を実施した。コロナ対策上、市内の小・中学校で集団での校外学習を自粛する向きが強かったのに加え、手狭な陸前高田市立博物館内では多数の来場者に対する3密回避の対応が困難であったため、合計14名という小規模校を対象としての開催とせざるを得なかったが、参加者の満足度は100%であった。事後アンケートの結果によると、訪問前の時点における陸前高田市立博物館の所在地と取組を把握していた児童は2割に満たず、ここ数年被災資料の再生に注力してきた経緯に鑑みれば止むを得ないことではあるが、市民、とりわけ低年齢層との関係強化の必要が浮き彫りとなった。一方で、実施後の所感「新しい博物館が完成したら絶対行く」「これからはふるさとの宝物を大切にしたい」「ぼくも津波がきてもめげずになにかをやりとげていきたい」「この経験を家族につたえたい」など、児童らの博物館や文化財等に対する意識の变革を示す言葉に満ちており、それが何よりも本事業の有効性を物語っているものとする。今後同様の事業を一層充実させていく必要が認められる。



写真 見学会の様相

#### 陸前高田市立博物館の認知度



## 3. 事業推進環境整備

### (1) 事業推進環境整備

#### ① 事業推進会議・② 実行委員会議・③ 事業広報物の製作・④ 活動成果の総括と報告書の作成

事業推進会議及び実行委員会議は計画段階では計4回対面での実施を想定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況をふまえ、対面（オンラインと組み合わせたハイブリッド）での開催は上半期・下半期の総括に係る2回にとどめ、代わりに適宜8回のオンライン会議を実施することで、円滑な事業推進に努めた。広報物についてはポスター2000枚、リーフレット20000枚を作成、全国約1500カ所の機関に配布し、当プロジェクトの事業周知をはかった。

#### 【総括】

新型コロナウイルス感染症が社会全体を揺るがす中、本事業もまたその影響を免れ得ず、特別展を開催した東京家政学院大学では、学生のキャンパス立ち入り制限に伴い来館者が激減する中での開催を余儀なくされるなど、多難な事業展開となったが、オンラインツールを併用することで、従前と同様かそれ以上の効果を挙げた個別事業もあり、ポストコロナにおいても採用可能なノウハウを得ることができた。一方で医療体制が脆弱である陸前高田市では、コロナへの警戒から活動の幅が相当度制限されることになったが、それでも見学会で博物館を訪れた児童たちが、こちらが示すまでもなく、学びの中から思い思いに未来を眼差していたことは、コロナ下に差す一筋の光明のように感じられた。それは同時に市民と共に、これからの被災文化財の活用可能性を考えていくという、新たな事業展開可能性を示唆しているものとする。